



堀田晋一朗

Vリーグ男子は26日からレギュラーラウンドの3順目に突入した。26、27日とストレートで勝利し、今年に入ってからリーグ戦は7連勝。優勝した昨年末の全日本選手権からチームは負け知らずである。

全日本選手権制覇の自信に加え、選手個々がそれに満足することなく向上心を持っていくことが好調の要因だと思う。一方、疲労の蓄積で思うようにプレーできない場面も増えてきた。

19日の松江大会でのジェイテクト戦では2セットを先取された。プロビッチ監

武智選手 勝利に貢献

監督はチームの得点源ながら調子の上からない劉力賓選手を途中交代させ、武智洸史選手を投入した。その采配が的中し、3セットを取り返して逆転勝利した。劉選手の加入後、出場機会が限られた武智選手だが、これまでのおつぶんを晴らすかのように活躍しチームに貢献してくれた。

バレーボール人生の中でベンチスタートは初めての経験だという。しかし試合に出られないことをプラスに捉えた。外からチームを見つめる新たな視点を持つことができたという。新人ながら冷静に自分を分析し、プレーに生かす力をプロビッチ監督は評価する。

チームは2位に浮上した。レギュラーラウンド最終戦となる2月23日の東広島大会（サントリー戦）までホームでの試合はない。遠征続きの中、気の抜けない戦いが続く。良い形でホームゲームを迎えられるよう、もう1段階ギアを上げて着実に勝ち点を積み重ねたい。（JTマネジャー）

松江大会でヒーローインタビューに答える武智選手（19日）

